テーマ

新しい「ふるさと」のかたち

報告書

令和元年度

熊本大学熊本創生推進機構

公共政策コンペ 2019

熊本大学 Kumamoto University

KIDO 熊本創生推進機構

文部科学省 地(知)の拠点

熊本大学熊本創生推進機構
公共政策コンペ

テーマ

新しい「ふるさと」のかたち

2019年11月9日（土）　13：00－16：30
場所：熊本大学工学部百周年記念館
主催：熊本大学熊本創生推進機構
後援：熊本県、熊本市、熊本日日新聞社、熊本商工会議所、大学コンソーシアム熊本

- **挨拶**　新留琢郎 熊本大学熊本創生推進機構 地域連携部門長
- **発表**
  - チーム **Joint Kumamoto Dreamers (JKD)（熊本大学）**
    テーマ 熊本地震から考える高齢者と避難所の問題解決策
  - チーム **Team MKY（熊本大学）**
    テーマ 創ろう！ エネルギッシュな商店街！
  - チーム **自主研究グループBチーム（合志市役所）**
    テーマ 世界に一つだけの竹灯籠を作ってまちを知ろう「BamSun会 ～竹灯りのまち～」
  - チーム **チームなるほどザワールド（菊池市役所）**
    テーマ 令和の改革 ～菊池市役所職員の働き方、そして～
  - チーム **合志市ふるさと環境活性化チーム（合志市役所）**
    テーマ 新しい「ふるさと」づくりのための最前線の足場固め
  - チーム **The Goodfathers（菊池市役所）**
    テーマ 地元時間を取り戻せ！ ～進学先なんて関係ない。みんなが菊池の子ども達～
  - チーム **K-mam（合志市役所）**
    テーマ 合志市の中心で愛をさけぶ
    ～転入者も若者もジモティも、みんながつながる新しい「ふるさと」のかたち～
  - チーム **未完のお話（熊本市役所）**
    テーマ 交通難民を救え！ 推しさと戦隊愛のりレンジャー
  - チーム **チーム「Are You ？」（鮎）～あなたは、どう生きたいですか?～（九州財務局 他）**
    テーマ 新しい「ふるさと」の在り方 ～ゆるい関係性ができる場～
  - チーム **D S light（菊池市役所）**
    テーマ このまま衰退しますか？ もう一度復活しますか？
- **ポスターセッション**
- **熊本創生推進機構地域連携部門の取り組みについて**
- **審査結果発表／表彰式**
- **審査員講評**

熊本大学 熊本創生推進機構
地域連携部門長
新留琢郎

本日は、この公共政策コンペにお集まりいただきまして、大変ありがとうございます。

今回11回目を迎えますこの公共政策コンペは、行政に携わる若い方々や学生が、様々な社会の問題を解決するための考えや政策を提案して、コンペを行うというものです。

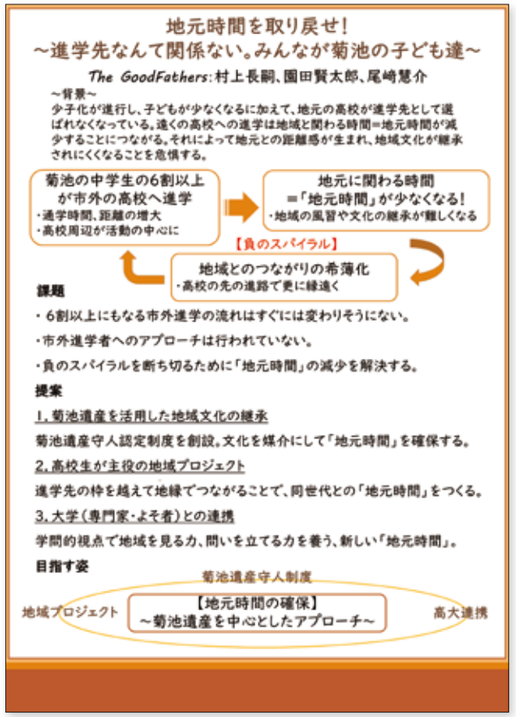
今年度は、皆さんもまだ記憶に新しいと思いますが、台風が毎週末のように連続してやって来て多くの被害が出ました。 そういうとき、行政や地域がどのようなタイミングでどう対応するかなど、多くの課題が見えてきたと思います。 また一方、熊本では桜町に新しい商業施設ができました。 街のかたちも変わり、新しく人が集まるところができれば、逆に減るところもあるかもしれません。 こういったところにも様々な課題が出てくると思います。 そういう状況の中、多くの社会の課題に対して、どう考え、解決策を見つけ出し、取り組むのか、これからの新しい「ふるさと」づくりに必要であると考えます。

本日は、若い方々の知恵を集めて、大いにディスカッションができればと思います。 本日得たものが、皆さんの将来への糧になればと思います。 どうぞ楽しんで帰っていただければと思います。

熊本大学賞
グランプリ

チーム **The Goodfathers**（菊池市役所）

テーマ **地元時間を取り戻せ！**
～進学先なんて関係ない。みんなが菊池の子ども達～



菊池市は10年間で人口が3136人減少、15歳未満の子どもは681人も減少しています。 また菊池、菊池農業、菊池女子高校は長らく地域の教育を支えてきましたが、今では菊池市の中学生の7割近くが市外の高校へ進学しています。 菊池市の平成30年の高齢化率は31.9%まで上昇し、地域文化を次世代へ伝えていくのが難しくなっています。 課題は、失われつつある地元時間を取り戻し、地域の歴史文化の象徴「菊池遺産」の持続可能な継承です。

人口減少や少子化に加え、市外への進学で通学時間も増え、人間関係も活動の場も進学先が中心になっていきます。 また部活、勉強などで、地元と関わる「地元時間」が減少します。

菊池市には、集落の文化や自然などの地域資源を将来にわたって残していく菊池遺産と認定し、保護や活用を図るという制度がありますが、高齢化や人口減少により維持管理が難しくなっています。 菊池遺産は建物のほか、風習や神事といった無形ものも含まれますので、人口減少は菊池遺産の減小につながります。 地元時間と菊池遺産の減少は、郷土愛を持った若者の減少につながるので、また人口が減っていくという負のスパイラル構造になります。

三つの政策提案です。 一つは**菊池遺産守人制度**の創設です。 菊池遺産を守り継承していく若者を市が菊池遺産守人に認定し、次世代への継承、文化を知ることを明文化する制度です。

次に高校生が主役となる**地域プロジェクト制度**の創設です。 例えば菊池遺産の守人になった生徒をリーダーに、地元の仲間と次世代の視点で文化の継承やアイデアを実現します。

最後に**大学との連携**です。 そこに住む人は、その土地を何もないと評価しますが、研究で訪れた学者たちはその土地の暮らしを豊かだと表現します。 同じ風景でも見え方が違います。 そのような別角度の見方を学ぶ場を作ります。

この政策は大学と連携して地元時間を取り戻し、郷土とのつながりを強化していきます。 菊池で生まれ育ったことをアイデンティティーとして地域文化を継承できれば、祭りなど節目において帰郷し、地域文化の担い手として活躍するでしょう。 新しいふるさとのかたちとは、自治体の枠にとらわれず、地元とのつながりを意識することで時代の変化に柔軟に対応していくというものです。

熊本
県知事賞

チーム

未完のお話
（熊本市役所）

テーマ

交通難民を救え！
推しさと戦隊愛のりレンジャー

西区河内町大多尾地区は公共交通機関がなく、距離的な問題から親族の頻繁な見守りが難しい現状があります。 そこで、まず、生活の足を確保するための市民ドライバーによる相乗り制度を提案します。

相乗りにはオンデマンド型とコストシェア型があり、前者では利用者がドライバーに送迎を依頼し配車が行われ、ドライバー自身には目的地がありません。ドライバーは営利目的でサービスを行っていて、過疎地域では需要となる利用者数が少なくドライバーを確保することが困難です。

コストシェア型はドライバーに目的地があり、送迎にかかったガソリン代等を利用者が負担することで、ドライバーと利用者の双方にメリットが発生します。対象を過疎地域に限定し住民の中からドライバーを募り、相乗りマッチングサービスを展開する会社と提携します。 これにより、地域の支え合いによって生活の足を確保していくことが可能となります。

続いて、スマートメーターを活用した見守り体制の構築、共助関係の強化の提案です。 これはライフラインの使用状況をデジタルで計測し、自動検針や遠隔操作を可能にします。 この機能を活用し、通常と異なる使用状況の場合には、親族や地域住民の方に通知が行くような仕組みを構築します。 スマートメーターを活用することで、地域一帯で見守り合う体制ができ、共助関係の強化につながるものと考えます。

熊日賞

チーム

K-mam
（合志市役所）

テーマ

合志市の中心で愛をさけぶ
～転入者も若者もジモティも、みんながつながる新しい「ふるさと」のかたち～

合志市の人口は、合併当時から1万人以上増えていますが、地域で活動する団体や自治会加入率は減少しています。 そこで、転入者と元々住んでいる人たちの誰もが気軽に参加できるコミュニティー作りが新しいふるさとのかたちと考えています。 課題は、転入者が既存のコミュニティー活動に参加しにくい、地域とのつながりが薄い若者がなかなか地域活動には参加できないという2点です。 その理由は勤務など、時間的制約が一番の理由です。

そこで、転入してくる人たち向けの新しいコミュニティーの設立、好きなこと、気になることを出発点にした取り組みを提案します。 キーワードは「サークル、SNS、QRコード」。 転入者向けのパパ、ママサークル、といったものをSNSで管理しながらサークルを作ったり、QRコードを発行し、市のお店を登録してどこへ買い物に行けばいいのかすぐに分かるような情報を発信していきます。また、食べて見て体験して楽しみながら好きになる市内バスツアー、主要施設見学、企業見学、農作物収穫体験などを企画します。

次に、若者が地域の中で自分を発信できる場づくりとしてLINEを活用した動画制作教室、LINE回覧板を企画し、動画でYouTube政策や、LINEスタンプ制作などを行います。 また、好きなときに受けられるサテライト講座を開いたらと考えています。

熊本市賞
市民賞

チーム

DS light
（菊池市役所）

テーマ

このまま衰退しますか？
もう一度復活しますか？

菊池市隈府地域は、中心市街地に位置しながらも、町が衰退していっている現状があります。 平成30年の空き家、空き店舗は76軒、その中で人に貸す意思のある物件は5軒と、住民の危機意識も薄く感じられます。 そこで、町が復活するための政策、三つの「つなぐ」を提案します。

まず、「外と内をつなぐ」。 空き家、空き店舗を活用して外から人を呼び、新しい考えや意識、行動を体感させ、住民の意識が変わっていくよう促します。空き店舗や空き家を利用して企業支援の拠点とし、地域と関わりながら滞在できる環境を整備します。

次に「人と人をつなぐ」。 フリースペースを設けて住民に開放し、散歩のついでに立ち寄り、近所の人とお茶を飲んで会話を楽しむ場所があれば、引きこもり防止や認知症予防にもつながります。 駄菓子屋があれば、高齢者と子どもたちをつなぐ場所になります。 町全体で子どもたちを見守る環境になれば、安心、安全なまちづくりと言えます。

最後は、「歩いてつなぐ」。 今、街中に必要なのは歩きやすさです。 そこで菊池の宝探しを企画します。 謎解きしながら菊池市のことを学ぶことができ、歩き疲れた体は温泉で癒すことができます。 遠方からの参加者は旅館に宿泊し、観光との組み合わせも可能です。

住民の意識を変えていくことから町の活性化が始まると考え、財政負担をできるだけしないかたちで、20年後の未来を見つめた政策を提案します。

熊本商工
会議所賞

チーム

Team MKY
（熊本大学）

テーマ

創ろう！ エネルギッシュな商店街！

高齢化が進む熊本市の健軍商店街では空き店舗の増加と商店街の若者離れという二つの課題があります。 そこで、広場と空き店舗を活用した提案です。

まず、カフェと一体型となった休憩スペースの設置です。 若者に人気のメニューを置いたり、無料のWi-Fiを設置します。 また健軍カードと連携して憩いの場所を作ります。

次に貸出店舗の設置です。 空き店舗を利用して、さまざまな用途に使い分けます。 定期的に学生と商店街で話し合い、若い人の考えを取り入れる企画を考え、各種イベントやサークル活動に無料貸し出しする場所にもします。

三つ目は、学生が主体で運営する小学生と中学生が対象の預かりサービスの実施です。 小学生には楽しい時間を提供、中学生には勉強面でのサポートを行います。

休憩スペースは学生やサラリーマンや高齢者など、さまざまな世代の人が気軽に利用できるため、世代を超えた交流の場をつくることができると考えています。 また、貸出店舗の設置は、目新しさを創出することができ、周りが興味を持ってくれるような魅力的な商店街になると考えています。 また、預かりサービスを実施することによって、子育て支援のみならず、地域とのつながりを構築することができるため、ますます商店街の活性化につながると考えています。

チーム **チームなるほどザワールド** （菊池市役所）

テーマ **令和の改革**
～菊池市役所職員の働き方、そして～

菊池市役所の職員は現在500人。 以前6人でやっていた仕事を現在は5人でやっているという状況で、仕事の量は増え職員の数は減り、一人一人の負担が大きくなっています。

また、職員の休暇取得率が平均10日と、半分ほどしか消化、取得ができていません。 また、休日にイベントなどに借り出される若手職員も多く早期退職なども毎年発生しています。

そこでより質の高い住民サービスにつなげるために、職員のモチベーションを上げることを考えました。 まず、長時間労働を解決するために、イベント業務の再検討とボランティアなどの募集で業務のスリム化を考えます。 次に、職員同士のつながりを考え、相談しやすいランチミーティングやレクリエーション大会を実施します。 そして各部門で素晴らしい職員を管理職が褒めるような視点で褒最優秀職員を決めるなどします。 以上の三つのアプローチで、市役所職員として生き生き仕事ができると思います。

チーム **Joint Kumamoto Dreamers (JKD)** （熊本大学）

テーマ **熊本地震から考える高齢者と避難所の問題解決策**

熊本地震により、避難所に関する様々な問題が露見しました。 課題は３つあり、高齢者の視点に立った住居位置と避難所の最適配置の問題・避難所に物資を行き届ける支援物資拠点の利用しやすい配置の問題・熊本地震に起因する災害危険度の金銭的評価の問題です。

課題解決のための３つの政策提言です。 一つ目は、GIS（地理情報システム）による災害避難所と支援物資の物流システムに関する分析を行った結果、宇城市・美里町・山都町や天草地方の内陸部に、優先的に避難所を設置すべきと提言します。 二つ目は、GISによる災害避難所と支援物資の物流システムに関する分析を行った結果、県南部や天草地方に備蓄倉庫等の物資拠点を増強すべきと提言します。 三つ目は、震災の危険度と公示地価に関するDID分析を行い、危険度が高い地区へは、避難所・支援物資中継所を優先的に整備する事前復興政策の策定が必要で、かつ、震災を風化させないための熊本のシンボルとなるような防災施設を造ることを提言します。

チーム **合志市ふるさと環境活性化チーム** （合志市役所）

テーマ **新しい「ふるさと」づくりのための最前線の足場固め**

職員が生き生き、わくわく、どきどきしながら仕事をすることこそが、新しいふるさとづくりで一番大事なことではないかと考えます。 合志市は、人口が増加し、住みやすい町です。一方で窓口の対応数は増えたにも関わらず、九州で人口1万人当たりの職員が４番目に少ない市です。 そこで、政策案を三つ考えました。

まず、人材の育成です。 メンター制度やトレーナー制度、外部講師によるコーチングスキルの研修や、タイムマネジメント研修、接遇研修やクレーム対応研修などを考えています。

次に、スマートワークとして、時差出勤制度の導入を宣言します。 役割分担をして予算も削減ができ、職員の子どもの送迎や渋滞や事故の緩和、さらに趣味の充実が望めます。

そして、エキスパート職員の養成です。 異動の周期を長くし、課長職、管理職は、経験したことのある部署への異動を提案します。 働きやすい職場作りでプライベートも充実し、新しいふるさとづくりの一歩であると考えます。

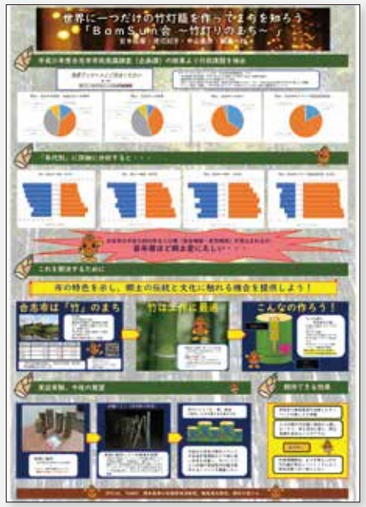
チーム **自主研究グループBチーム** （合志市役所）

テーマ **世界に一つだけの竹灯籠を作ってまちを知ろう**
「ＢａｍＳｕｎ会 ～竹灯りのまち～」

合志市では、市民意識調査の結果、若年層ほど郷土愛に乏しいという結果が出ました。

合志市は竹迫城に関連して町史をひもとくと歴史的にも、また竹林面積割合でも県内トップという「竹の町」です。 そこで市の特色を示し、郷土の伝統と文化に触れる機会を提供しようと、エコ仕様の常設型竹灯籠の制作イベントを企画しました。 光源には太陽光パネル付きのLEDライトを使用し、デザイン性も高めています。 竹をカラーフィルムで覆うことで耐候性を確保し、資材に親しみながら世界に ひとつだけの竹灯籠を製作するものです。

今後は、若い市民を対象に竹灯籠を制作するイベントを開催し、普及したいと考えています。 ものづくりの楽しさを前面に出しながらもエコ仕様の竹灯籠に普段から親しむことで、市を身近に感じ、郷土意識を高めることができるものと考えています。 また、竹林問題の解決や防犯対策の一助になれば幸いです。



チーム **チーム「Are You？」(鮎)** ～あなたは、どう生きたいですか？～
（九州財務局 他）

テーマ **新しい「ふるさと」の在り方**
～ゆるい関係性ができる場～

ふるさとは今消滅の危機にあり、大切なふるさとを守り続けること、行動することが、私たちの責務ではないかと思います。 生活形態の多様化による少子化、高齢化による人口減少、人材流出、地震などの災害による人口流出による働き手、担い手不足、経済環境の変化、雇用機会の不足、財源不足、流出を防ぐことが政策につながると思います。

そこで、MWターン（もっとわくわくターン）を提案します。 文字の上側がふるさと、下側を居住地として、行ったり来たりするようなかたちです。 祭りへの参加、会いたい人に会う、親孝行での帰省等を繰り返すことで、ゆるい関係性ができる場が構築されます。

成熟社会に入り、精神的な豊かさが大事にされてきています。 新しいふるさとのかたちを模索する時代に来ていると考えます。 私たちは、甲佐町の素晴らしい地域資源を活用したコンテンツを生み出し、このMWターンで、ふるさとで幸せに暮らしていきたいなと思っています。

質疑応答 &
ポスターセッション

Joint Kumamoto Dreamers (JKD)（熊本大学）
熊本地震から考える高齢者と避難所の問題解決策

Q 発表された内容を研究するときに、それぞれの役所の担当セクション等に、直接ヒアリングはされましたか。

A 直接のヒアリングはしてないですが、その避難所であったり、支援物資中継所であったりのデータは、各地方公共団体のホームページを見て調べるなどをしました。

Q 現状把握の段階でヒアリングを十分にやったほうが、大衆的な提言として、本当に政策提言につながるのではないかと思います。

Team MKY（熊本大学）
創ろう！ エネルギッシュな商店街！

Q 若い方々に、商店街の問題点や課題を解決しようという意識を持っていただき非常にありがたく思います。 健軍商店街は特に地震の影響をすごく受けた場所でしたので、データの取り方につきまして、（熊本地震以前）平成26年、27年のデータも含めて将来予測を行うと、違った観点があるのかと思いました。 地元商店街の方からの聞き取り調査等はされていますか。

A 実際に健軍商店街に行ってみて、健軍商店街の商工会の方に実際にお話はお聞きしました。

自主研究グループBチーム（合志市役所）
世界に一つだけの竹灯籠を作ってまちを知ろう
「BamSun会 ～竹灯りのまち～ 」

Q この竹灯籠というのは、すでに成功事例があります。 熊本市の熊本城だとか、今は桜町近辺でやっています。 灯篭自体は違うのでしょうが、先行した地域と合志市がどういう差別化を図っていくのか教えてください。

A 確かに竹灯籠作りというのは新しいものではありません。 私たちの企画としては、竹灯籠作りを通じて、自分の町の歴史的な背景であったり、地域的なものであったり、そういったものを知ろうというきっかけの一つとして企画したものです。

チームなるほどザワールド（菊池市役所）
令和の改革 ～菊池市役所職員の働き方、そして～

Q ご提案されたような課題の共有は、職場の上司の方や若い方を含めてできているのでしょうか。

A なかなか根本的な課題を話す場は、現在、少なく感じております。 この提言でそういったこと自体を話し合うような場が市役所内で増えていければと考えております。

合志市ふるさと環境活性化チーム（合志市役所）
新しい「ふるさと」づくりのための最前線の足場固め

Q 窓口対応数が急激に増えている現状に、驚かされます。 この原因と考えられるものは、肌実感として何かありますか。 また、それは熊本地震の影響が考えられるものなのでしょうか。

A 合志市の人口の増加に伴い、窓口の件数対応が増えているところはあるかと思います。 熊本地震の影響は、多少、転入出等の応対等はあるかと思いますが、現時点では、直接原因としては考えられないかと思います。

The Goodfathers（菊池市役所）
地元時間を取り戻せ！
～進学先なんて関係ない。みんなが菊池の子ども達～

Q「地元時間」は、ものすごくユニークな概念なのですが、これは何かからヒントを得たというのはありますか。

A「地元時間」というアイデア自体は、地元と関わる時間が減っていくという感覚をうまく言語化できないかということを二人で話し合ったときに「地元時間」というワードが出てきたのが発端です。 発表中にある高校生が主体のプロジェクトだとか、そういったものについては、例えば福井県鯖江市で行われているJK課とか、そういったものを参考に考えました。

K-mam（合志市役所）
合志市の中心で愛をさけぶ　～転入者も若者もジモティも、みんながつながる新しい「ふるさと」のかたち～

Q 発表された最初の課題の中で、自治会へ加入しない世帯が多いということだったのですが、自治会への加入世帯を増やすということが目的であれば、発表された取り組みと、そこにつなげる仕組みに何かアイデアはあるのでしょうか。

A LINE回覧板というのを一つ例に取らせていただきます。 実際に、回覧板が手間だという話が挙がっている自治会で、回覧板としてLINEを活用して情報周知や高齢者の安否確認をしている取り組みを聞きました。 回覧板を回すという手間を省いていくことで、新しく自治会への加入にもつながっていくのではないかと考えております。

未完のお話（熊本市役所）
交通難民を救え！　推しさと戦隊愛のりレンジャー

Q コストシェアのオンデマンドではなくて、コストシェアのコミュニティー交通提案が出ていましたが、日中ほぼ高齢者しか地域に残らない現状で、どうやってコストシェアをすればよいかとお考えですか。

A 過疎地域であれば当然その地域内にスーパーとか病院といった生活インフラがないということで、ある程度近隣への動線というものが共通してくるかとは思っております。 その近隣の動線を共通するということは移動も共通する。 需要と供給が共通する範囲があると思いますので、実際に政策として行っていくのであれば、ごくごく小さい地域単位で絞るのではなく、ある程度、動線が共通している範囲で、拡大して適応できればと考えています。

チーム「Are You ？」（鮎）
～あなたは、どう生きたいですか？～（九州財務局 他）
新しい「ふるさと」の在り方 ～ゆるい関係性ができる場～

Q 発表された「MWターン」の頻度を上げていくために、どういうことが必要かと思われますか。 特に、イベント等に実際に行くというのは、かなり動機付けがいると思うのですが、そこの部分は何かアイデアはありますか。

A ICTの活用をアイデアの軸として考えています。 例えば、システム開発を携わっている方と連携して、ポイントがつくような、面白いゲーム性のあるアプリを作成し、地域内外の人々が参加しやすいような、いわゆる一つの「関係人口」を作り出していく仕組みというものを考えています。

DSlight（菊池市役所）
このまま衰退しますか？ もう一度復活しますか？

Q 今回の公共政策コンペ全体を通して事業提案が多かった中では、政策のパッケージとして提案されているかと思いました。 地域住民の方々にフィールドワークをされたか、教えていただけますか。

A 今回の政策提案に関してのフィールドワークは行っていませんけれども、常に住民の方と窓口等での関わりを持っていますので、その中での話を聞いたものをもとに作成しております。

講　評

熊本県 企画振興部 政策審議監
水谷 孝司 氏

【略歴】1986年熊本県庁入庁、2015年川辺川ダム総合対策課長、2016年国際スポーツ大会推進課長、2018年企画振興部 地域・文化振興局長を経て、2019年4月より現職。

今日は、本当にありがとうございました。私自身はいろんな提案を聞かせていただいて、大変勉強になったところです。

県知事賞としては、熊本市役所のチーム「未完のお話」を選ばせていただきました。

県内で人口が一番多い熊本市であっても過疎問題があるということですが、県内は非常に多くの自治体が、実際、過疎に悩んでいます。 今回、過疎地域で起こっている課題に対し、二つのアイデアをいただきましたけれども、新しい技術も使った中で、実際に実現可能な提案をいただいたと思います。

私自身も、家は熊本市内で、母親が一人暮らしをしているため、よく電話をしたりはするのですが、もし、水道の使用状況が家族に通知されることで、簡単に「ああ、ちゃんと元気にやっているんだな。」ということがわかれば、非常に助かるという個人的な思いもあって、選定させていただきました。

他にも、賞には漏れましたが、自治体の中で仕事をする上で色々と苦労をされているというお話もありました。 人口が増えている、増えていないにかかわらず、自治体には様々な課題がありますが、職員のやる気があればできることもあると思いますので、そこを一歩頑張る勇気、例えば上司に具体的に相談してみるなど、小さなことから変えていけば、だんだん組織もうまく変わっていくかと思います。 一緒になって県も変わっていければと思いますので、今後ともよろしくお願いいたします。

熊本市 政策局長
古庄 修治 氏

【略歴】1985年熊本市役所入庁、2009年高齢介護福祉課長、2011年交通政策総室次長、2012年交通政策総室長、2014年企画振興局次長、2015年市長政策総室長、2016年4月より現職。

今年度の政策コンペも事業提案のチームが多いように思えました。 ただ、事業政策につなげるというのは、ある程度の汎用性を求めます。 政策立案する上で、まずは肌感覚での思い付きから始めて、フィールドワーク、調査研究をした上で、EBPM（証拠に基づく政策立案）を用いた成果や効果を検証して提案するのが一番望ましいです。 そうすれば、提案した政策が市政あるいは県政に実際に採用されるものになってきます。

今回、賞に選ばれた方々は、最初の始まりが思い付きでも、具体的な事業として、実現可能なもの、成果が上がるものが選ばれていると思います。 ただ、本来なら汎用が効くようなかたちで事業の固まりが政策なので、単なる事業提案からあとワンステップ上がってほしいと思います。

例えば、「未完のお話」チームも、まだ事業提案の段階ですが、実際に提案を事業化するためには多くの法律上の規制があります。 それをどのように解決していくか、それこそが政策提案になってきます。加えて提案の対象地区だけでなく、他の過疎地域に共通する解決策が本当の政策となります。 だから、ここからステップアップをして政策提案していただければと思いました。

最後に改めてですが、まずは多くの思い付きが、まちをよくしたい、自身の仕事環境をよくしたいという熱意から出てくることが政策立案の最初のきっかけなので、そこを大切にしていただければと思っております。

政策提言（概要）書、口頭プレゼンテーション及びポスターセッション、各審査員との質疑応答の結果を下記6点の評価視点によって審査されました。

❶課題の重要性
❷研究的視点
❸提案内容の元気さ・前向きさ
❹提案内容のユニークさ
❺提案内容における市民の視点
❻発表について

熊本日日新聞社 役員待遇編集局長
荒木 正博 氏

【略歴】1983年、熊本日日新聞社入社。政経部、水俣支局長、地方部次長、東京支社編集部長、論説委員会論説委員、政経部長、編集局次長、東京支社長を経て、2017年3月から現職。菊池市出身。

審査は今年で2回目でした。 審査員が5人いて、上野先生ももともとは行政がご専門でしたので、行政に関わっていないのは私だけです。 ということですので、新聞社、新聞記者としての視点での審査をさせてもらいました。

何よりも政策の着想、創意工夫といいますか、その面白さ、提案力を重視した採点にさせていただいております。10チームそれぞれに、そういった観点からの点数を付けさせていただきました。

熊日賞に選ばせていただきましたK-mamさん、おめでとうございます。 どのような点が良かったのか。 合志市という自治体は、県内では珍しく人口が増えています。転入者が多い。 それをどう受け入れていくのかという合志市ならではのテーマに対し、これまでの枠にはめ込んでいくのではない着想がとても新鮮でした。 新たな枠を設け、そこに取りあえず入ってもらって、古い枠、従来の枠に少しずつ近づけていくという面白い提案だったと思います。

せっかくですので提案にとどまらず、ぜひこれは頑張っていただいて合志市の政策として実現させていただきたい。 そういう願いも込めての熊日賞です。

熊本商工会議所 専務理事
坂本 浩 氏

【略歴】1982年熊本県庁入庁、2014年企画振興部交通政策・情報局長、2015年企画振興部政策審議監、2016年4月知事公室政策審議監、同年5月知事公室長を経て、2019年3月に熊本県庁退職後、同年4月より現職。

5年ぶりに、この席に戻ってまいりました。

熊本地震の前と後という視点で話を聞いていました。 震災で生活や価値観が随分変わった気がする中で、前回と比べて、若い人たちの考えが若干安定的というか、幸せな今の時間を大事にしたい、という雰囲気が感じられました。 もう少し極端な発言や意見を聞いてみたかった気がします。

そういう意味で、1番と2番の提案は、非常に面白い着眼点があったと思います。特に1番は私の好きな切り口でした。

2番の中心商店街だけではなく市内でもちょっと離れた所、健軍商店街がシャッター街になったらいけないという危機感を持って、若い方々が真剣に考えていただいたというのは非常にありがたく感じました。

ただ、地震前を思い返すのと同時に、5年後、空港ターミナルビルや新駅ビルが完成した際にどうなっているか、とか、10年後、空港からの鉄軌道が豊肥線に接続した状況などを想像して、若者が減少していく熊本市や熊本県はどうしていくのか、という切り口があっても面白いのではないかと思いました。

また提案だけでなく、今できることがあるとしたら、すぐに取りかかっていただければと思います。 もしかしたら、具体的に動かせる人がいるかもしれません。 実際に健軍商店街に行ってみるとか、行動につなげていただけたら幸いです。

どのグループも本当に良い提案をありがとうございました。 これからも取り組みを続けていただければと思います。

熊本大学
熊本創生推進機構地域連携部門 教授
上野 眞也

【略歴】1978年（株）太陽神戸銀行入社、1979年熊本県庁入庁、2001年熊本大学生涯学習教育研究センター助教授、2006年熊本大学政策創造研究センター教授、2009～2015年熊本大学学長特別補佐を経て、2017年4月より現職。

時代とともに、この政策コンペでのテーマが変化しています。 以前は貧困問題など、社会的な問題が多かったですが、地震以降、防災とか、集落、コミュニティーの話が増えたように思います。 たぶん、人間が危機に直面したときに頼りになるコミュニティーの重要性に関心が向いているのでしょう。

今年のご提案にも、地縁的なものからバーチャルな関係性まで、何らかの関係性を地域に創れないかというものが幾つかありました。 生きていく上で課題が起きると、自分だけで解決できないときは、同じ課題を抱えている仲間とクラブ組織を作って対応する。 それが地域の中で発達していくと、次第に地縁的な組織と融合して、地域の取り組みに発展します。 しかしさらに少子高齢化が進んだときに、活動を維持できなくなるということも起き始めています。 地域社会もずっと変化を続けているわけですね。

人間関係も変化していて、今は隣人よりもLINEでつながっている人が知人、隣人となっている。 こういう傾向は止めようがない。 従来の町内会を強化しましょうというだけではない、新しい発想が必要だろうなと思っていて、皆さんのご提案を興味深く伺いました。 The Goodfathersチームが、地域での関係性を増やすための「地元時間」という概念を提案されたことは、その意味で新鮮でした。

今日は、3自治体の職員さん、それから熊本大学等の学生の皆さん、10チームのユニークな気づきとご提案をありがとうございました。

熊本を
より元気にする
「ふるさと」の
かたち！

国立大学法人 熊本大学
熊本創生推進機構 地域連携部門

〒860-8555 熊本市中央区黒髪２丁目39番１号
tel 096-342-2044 fax 096-342-2042
e-mail：seisakucompe@gmail.com
http://www.cps.kumamoto-u.ac.jp/seisakusozo/compe/

こちらからもご覧ください→
TEAM ENTRY LIST 2019

熊本大学　公共政策コンペ　検索